

平成 26 年度 第 1 回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 26 年 9 月 18 日（木）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長・委員長）
 - 木下 美聡（学科長）
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ接骨治療院 院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 平成 27 年度 新カリキュラムの申請手順について（スケジュール等説明）

2. 検討事項

- 平成 27 年度 新カリキュラム内容について
 - 日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）
-

1. 報告事項

新カリキュラムの申請スケジュールを奥田教務部長が報告

2. 検討事項

<平成 27 年度 新カリキュラム内容について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 近年、福祉業界（介護）に「機能訓練指導員」として就職する学生が多いとのこと。その現状を踏まえ、「機能訓練指導員」としての知識・技術を、授業の中で教えて行かなくてはならないのでは。
- 福祉業界（介護）に進む学生には、理論だけではなく、老人の接遇等も教えて頂きたい。
- 「グローバル人材育成」科目の目的・内容等を学生には分かりやすく説明するべき。
- スポーツトレーナー希望の学生には、実技授業の中で、柔道整復術をしっかり教えて頂きたい。「評価－整復－固定」の一連をしっかりと教えて頂きたい。
- 「関係法規」を何故、2 単位に減らしたのか。臨床現場に出て一番大切。国家試験対策ではなく、臨床現場に出て役に立つ関係法規を教えて頂きたい。
- 「関係法規」では、やっていいことと悪いことなど、実例を挙げて教えて頂きたい。

現場に即した科目内容にしてほしい。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">■ 授業計画やリエンション等を使い、学生がその科目の目的・授業内容等が明確に理解できるようにする。■ 国家試験合格だけでなく、臨床現場において必要な知識・技術等も授業の中でしっかりと修学させるような授業内容・構成にする。 |
|---|

<日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）>

① アーリー・エクスポージャー（早期臨床体験学習）制度について

- 学生は、治療院で見学するだけになるが、それでも大きな意味がある。実際に臨床現場を見て、色々なことを感じる事が大切である。
- その際の評価（学生に対して）もやるべき。評価表は、学校側で作成して頂きたい。
- 患者様に対し、失礼がない対応ができるようになってから行かせた方がいいのではないか。
- 治療院内での患者様に対する接遇は、治療院で院長が教えればいいのか。
- 現場の厳しさも知ることだろう。とても有意義だ。業界の人間としても、是非進めて頂きたい。
- 昼間部だけではなく、夜間部（社会人経験がある）に対しても実施をするべき。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 次年度実施に向け、詳細を詰めていく。 |
|--|

② 卒業インターシップ制度

- チェーン展開をしている接骨院の中には、経営面ばかりを考え、技術研修が不十分の接骨院も多い。是非、学校で卒業研修をして頂き、本物の柔整師を育て、社会貢献をして頂きたい。
- 卒業生にとって、初めての就職先は非常に重要（どの先生に学ぶかは、技術向上において大きく影響するから）。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 協力施術所を選ぶ基準を明確にする■ 研修生に対する報酬は慎重に検討する |
|--|

<平成 26 年度 第 2 回委員会開催について>

平成 27 年 2 月 19 日（木） 18：00 ～ 19：00

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 1 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 26 年 9 月 18 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長・委員長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会 副会長）
 - 藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- 平成 27 年度 新カリキュラムの申請手順について（スケジュール等説明）

2. 検討事項

- 平成 27 年度 新カリキュラム内容について
 - 日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）
-

1. 確認事項

新カリキュラムの申請スケジュールを奥田教務部長が報告

2. 検討事項

<平成 27 年度 新カリキュラム内容について>

上記の議題について、下記のような意見が出された。

- 単位数が減っているが大丈夫なのか
→回答：1 単位の時間数を増やしているため、授業時間が減ってはいない（カリキュラム表参照）
- 低学力の学生に対しての対策を聞きたい
→回答：基礎学力テストを新垣に実施。その結果を基に対象者を決め、補講を実施している（4/14 開始）
- 学生が自信を持って卒業できるようなカリキュラムにして頂きたい。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- 学生が自信を持って卒業して行けるようなカリキュラム（教育課程）・課外授業等を実施する。
- 低学力の学生に対して、補講等を行い、実力の向上を目指せるような体制を整える。

<日本医専ツイン・インターシップ制度（NITIS）>

① アーリー・エクスポージャー（早期臨床体験学習）制度について

- 目的は大賛成。是非、実施をしてほしい。
- 若い学生だけではなく、年代が上の学生・社会人からの転職組にも必要。
- 昼間部だけではなく、夜間部も実施した方がいい。
- 年代が上の学生の方が卒業後、職につきにくい。その現状を改善するためにも必要な制度。
- 在学中、治療院以外の仕事をしている学生は、特に必要。資格修得後、全く臨床現場を知らずに就職するのは、雇用側としても困惑することが多い。
- 高卒新卒の学生に対しては、行く前にマナー研修等が必要。
- 評価をし、優秀者に対して卒業式で表彰してはどうか。

上記の意見を踏まえ、下記のような方向で進めることが確認された。

- 次年度実施に向け、詳細を詰めていく。
- 同窓会に実施報告をし、詳細を詰めていく。

② 卒後インターシップ制度

- 制度としては魅力的。ただ、協力治療院を確保するのが難しいと思う。
- 現在、スタッフを確保するのに人材派遣会社に登録し紹介してもらっている。この制度は卒業生だけではなく、スタッフ確保という面で治療院としてもメリットが大きい。
- 同窓会も協力治療院確保に協力をさせて頂きたい。
- 実施期間は12ヶ月必要

上記の意見を踏まえ、下記のような方向性で進めることが確認された。

- 次年度に向け、詳細を詰めていく。
- 同窓会に実施報告をし、協力依頼を行う。

<平成26年度 第2回委員会開催について>

平成27年2月19日（木） 14:00 ～ 15:00

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 2 回 柔道整復学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）18：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：10 名（委員：9 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長・委員長）
 - 木下 美聡（学科長）
 - 伊賀 久高（副校長付）
 - 伊藤 述史（公益社団法人 東京都柔道整復師会 副会長）
 - 深沢 篤（みさと接骨院 チーフ）
 - 道狭 浩子（ひろこ接骨治療院 院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の確認
- ② 平成 26 年度の教育活動報告
- ③ 「理念・教育目標」について

2. 検討事項

- 平成 27 年度の教育課程について
-

1. 報告事項

- ② 平成 26 年度の教育活動報告 → 前期実施事項の報告（保護者会）
- ③ 「理念・教育目標」について → 今回明確に打ち出した。その意図と意思を説明。

2. 検討事項

<平成 27 年度の教育課程について>

上記の議題について、奥田教務部長より方針・変更点等が説明され、下記のような意見が出された。

- 全体の方向性・意図は賛同できる。あとは各学年での到達度等が明確にし、学生側に伝え、理解させる工夫をしてほしい。
- 今までにないカリキュラム構成がいいと思う。あとは、科目間の連携を上手くとれるようにしてほしい。

<平成 27 年度 第 1 回委員会開催について>

平成 27 年 9 月 28 日中旬を予定（6 月頃日程のご相談をさせていただきます）

（文責／松丸）

平成 26 年度 第 2 回 鍼灸学科 教育課程編成委員会

- 日時：平成 27 年 2 月 19 日（木）14：00
- 場所：日本医学柔整鍼灸専門学校 101 教室
- 出席者：9 名（委員：8 名・記録：1 名）
 - 二瓶 隆一（校長）
 - 渡邊 勉（副校長・委員長）
 - 岸本 光正（副校長）
 - 奥田 久幸（教務部長）
 - 青木 春美（学科長）
 - 伊集院 克（公益社団法人 東京都鍼灸師会 副会長）
 - 藤原 良次（数式会社アールエフ 代表取締役）
 - 菊池 優子（貴子鍼灸治療室 副院長）

<本日の議題>

1. 報告事項

- ① 前回（9/18）会議の報告
- ② 平成 26 年度の教育活動報告
- ③ 「理念・教育目標」について

2. 検討事項

- 平成 27 年度の教育課程について
-

1. 報告事項

- ② 平成 26 年度の教育活動報告
→前期実施の報告（保護者会）
- ③ 「理念・教育目標」について
→今回明確に打ち出した報告と、その意図・思いを伝えた。

2. 検討事項

<平成 27 年度の教育課程について>

上記の議題について、青木学科長より方針・変更点等が説明され、下記のような意見が出された。

- ◆ 実技の科目名が分かりやすい。
- ◆ 科目名（実技）から内容が連想しやすい。
- ◆ カリキュラム構成がいい。
- ◆ 3 年間の教育課程の構成から、育てたい人材像が想像できる。
- ◆ 実際の運用になると、問題点等出てくると思う。その際は、できる限り修正を加え、学生が習得しやすい環境（構成）を作してほしい。

<平成 27 年度 第 1 回委員会開催について>

平成 27 年 9 月 28 日中旬を予定（6 月頃日程のご相談をさせていただきます）

（文責／松丸）